

「ウィルダネス環境下を想定したサバイバルスキル」

川口 拓

(WILD AND NATIVE 代表、
Japan Bushcraft School 校長)



ブッシュクラフト指導法 ナイフの安全な使い方とそれを通じて伝える「自然」

近年「ブッシュクラフト」という言葉がポピュラーになってきました。同時にそれを実践する人々も増えています。ブッシュクラフトには様々な定義がありますが、ここでは「サバイバル術を趣味として楽しむ事」とします。技術自体は昔から日本にもあるものですが、ブッシュクラフトというお洒落な名前が備わった事で、そのアイデンティティも確立されたようです。

講習を開催していても、その人気の高まりを肌で感じる事ができます。昨今のキャンプブームによるものでもあるのですが、私は、多くの方々が Wilderness という環境、状況に元々憧れや興味を持っていて、そこにアクセスをかけるための、分かり易く体系的な手段がひとつ増えたのだと思います。イコール彼等が求めているものは技術だけに留まらず、それを通じて「自然」というものを感じられる事であるとも言えます。

今回は、ブッシュクラフトの指導方法として、Wilderness 環境下においても非常に重要なギアの一つである「ナイフ」をトピックにし、主に下記の3点を皆さんと共有してみたいと思います。

①ナイフの安全な使い方、及指導方法

ナイフを安全に使うにあたっての注意点、そして実際に木材を削ってみながら幾つかの持ち方や使い方を体験して頂きます。プログラムを進行しながら、それを指導する際に留意している事などにも触れていきます。

②アウェアネスの学び

アウェアネス～内面的な気づき～は、あらゆる Wilderness 状況下においても様々な学びをもたらしてくれます。また、「気づき」というものは、あらゆる危機管理能力と直結します。ナイフの使い方を学ぶプロセスの中に、そのアウェアネスのエッセンスをどうやってブレンドしているかを皆さんと共有します。

③「自然」との向き合い方

比較的小さな木片をナイフで削ってみるという講習自体は、雨天時などでも室内でできる構成になっています。例え室内で行ったとしても、受講者が、自然というものの存在、大きさ、そこからの学びというものを少しでも多く感じられるように心がけている事をお伝えしたいと思います。